

四日市旧港

まちあるきMAP



発行：四日市港まちあるき実行委員会

問い合わせ先：事務局 四日市港管理組合振興課
TEL:059-366-7022

発行：四日市港まちあるき
実行委員会



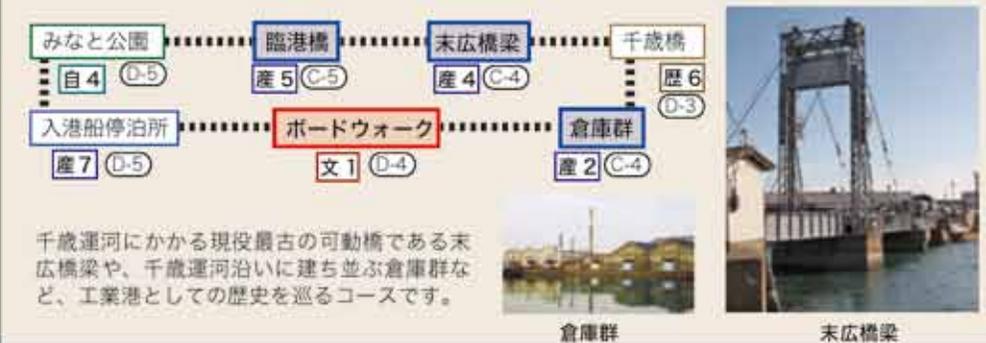
まちあるき モデルコース

各ポイントの下部
 内はP8~11の資源情報、
 内はP4~P7の地図上の
 位置を表しています。

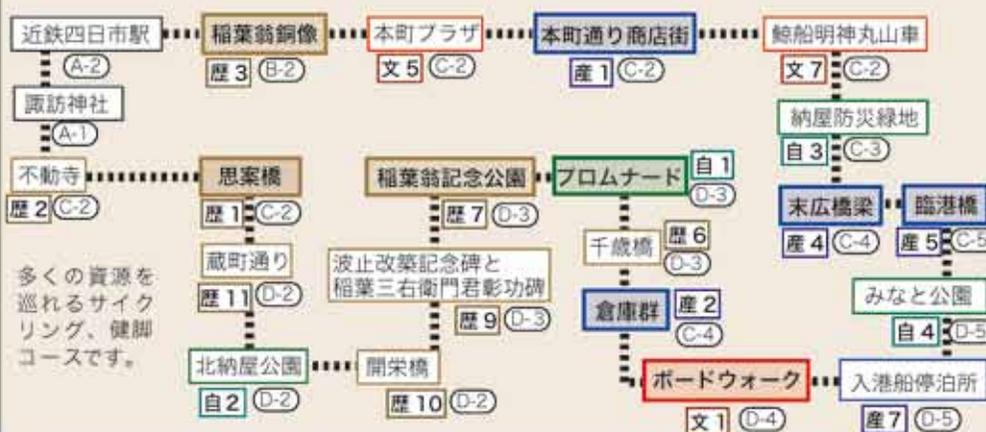
1 JR四日市駅発 稲葉翁を巡るコース [2.5km / 約1時間30分]



2 みなと公園発 末広橋梁・倉庫群コース [2.8km / 約2時間]



3 近鉄四日市駅発 ぐるっと1周コース [8.1km / サイクリング 約2時間 健脚 約3時間30分]



まちあるきマップ

詳細図は次ページ以降をご参照ください。



レンタル自転車
 近鉄四日市駅北自転車等駐車場内 (059-357-2014)
 近鉄四日市駅高架下観光案内所内 (059-357-0381)
 JR四日市駅駅舎内 (059-357-2014)



【ご案内とお願い】

- ・モデルコースの所要時間は目安です。まちあるきマップを参考に、各自のペースでご散歩下さい。
- ・交通ルールを守り、作業車両等に十分注意して下さい。
- ・危険ですので、荷役作業をしている場所には立ち入らないで下さい。
- ・ゴミ等はお持ち帰り下さい。
- ・歩行中の喫煙はおやめ下さい。吸い殻入れのある場所以外での喫煙はご遠慮下さい。
- ・散歩中、駐車時等での負傷や他に与えた損害については一切責任を負いません。



1 稲葉翁を巡るコース

3 くるっと1周コース

- 凡例**
- 歴史的資源
 - 文化的資源
 - 産業的資源
 - 自然的資源
 - ★ 重要な資源 (色は資源の色に準じる)
 - 1~12 ひとやすみ (P12,13参照)
 - 神社
 - 寺院
 - コンビニ
 - W.C.
 - 陣屋跡
 - 山車収蔵庫
 - 公共施設・学校
 - 民間・商業施設
 - 公園・緑地
 - 駐車場
 - 東海道
 - 浜街道
 - 南街道
 - 運河跡(推測)
 - JR線
 - 近鉄線
 - 公共施設・学校
 - 民間・商業施設
 - 公園・緑地

↓ 南 (P6-7)



歴史的資源

内はP4～P7の地図上の位置、★は重要な資源を表しています。

★思案橋

歴1 C-2

徳川家康が本能寺の変を聞き、三河へ帰国する時、海路にするか陸路にするか思案に暮れたという故事から、この橋の名がつけられたと言われています。昔は思案橋の近くに四日市湊がありました。



■不動寺

歴2 C-2

このあたりは四日市港の中心であり、竜の形をした松に灯明をつけて灯台代わりにした竜灯松は、港の目印でした。寛永16年(1639)、揖斐川で大洪水があり、美濃国高須にある観音寺から「不動明王の像」が伊勢湾へ漂流し、四日市南納屋の漁師、井垣某の漁網にかかりました。この地に縁のある御仏だろと竜灯松の下に御堂を建立し、祀ったのがはじまりだと言われています。



昔の不動寺

★稲葉翁銅像

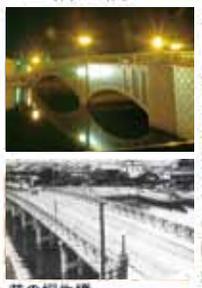
歴3 B-2

昭和2年(1927)、市制30周年記念事業として、近代港湾の基礎を築いた6代目稲葉三右衛門の銅像がつけられました。当時の像は戦時中の金属供出によって失われ、現在は昭和30年につくられた2代目です。



■相生橋

歴4 D-2



昔の相生橋

初代相生橋は明治23年(1890)、当時の袋町、高砂町両町民の負担で架けられた木橋でした。平成7年(1995)秋に完成した現在の橋は3代目で、夜になるとライトアップされ、昼間とは違った雰囲気を醸し出し、地域の人々にも親しまれています。

★潮吹防波堤

歴5 E-3



昔の潮吹防波堤

稲葉三右衛門が築いた旧港が暴風雨によって大破したため、明治26年(1893)阪部長七によって築られました。長七は、波の力を弱めるため堤防の腹部に穴をあける工夫を凝らし、強度な人造石を発明し、堤防を造りました。平成8年(1996)国の重要文化財に指定されています。

■千歳橋

歴6 D-3

大正15年(1926)に完成した、尾上町と千歳町(二号地)を結ぶ千歳橋は、昔は橋脚の本数が多く、オブジェもありました。



昔の千歳橋(四日市市立博物館提供)

★稲葉翁記念公園

歴7 D-3

四日市湊を修築して近代港湾への基礎を築いた稲葉三右衛門の偉業を記念して旧港の岸壁近くに作られた公園です。潮吹防波堤の仕組みを再現するレプリカ模型が展示されています。



■潮呼橋跡

歴8 D-2



運河に架かっていた橋跡の記念碑です。この辺りの船溜まりは、満潮を待って舳(はしけ)が入り荷揚げをしていたことから、この橋の名が付けられたと伝えられています。

波止改築記念碑と稲葉三右衛門君彰功碑

歴9 D-3



波止改築記念碑は、防波堤改築を記念して明治27(1894)年に作られた碑です。稲葉三右衛門君彰功碑は、明治30年(1897)に建てられた顕彰碑です。これらは潮吹き防波堤とともに国の重要文化財に指定されています。

■開栄橋

歴10 D-2

相生橋の北に位置し、納屋運河に架かる開栄橋は旧蔵町と稲葉町を繋ぎ、思案橋に続く歴史ある橋です。昔の写真では橋を渡った左手に四日市郵便局があり、半鐘の脇には浜往還の松がみえます。



昔の開栄橋

■蔵町通り

歴11 D-2



蔵町は納屋地区でも最も古く、最初に発展した町です。現在の蔵町は、なやプラザ(旧納屋小学校)の周りを囲むようにありますが、江戸時代初期には思案橋から港に続く通りの両側に蔵が建ち並び、町を形成していました。昔の写真では、手前に九鬼肥料店、奥には四日市銀行が見えます。



昔の蔵町通り

■納屋運河

歴12 D-2



昔の写真の対岸の白亜の洋館は四日市郵便局で、右奥には開栄橋、その向こうには倉庫がありました。



昔の納屋運河

自然的資源

★プロムナード

自1 D-3

高潮護岸の防壁前面平場を利用してカラー舗装化や安全柵、照明灯の設置を行い、旧港から千歳橋までの遊歩道として平成3年(1991)に整備されました。旧港を眺めながら散策することができます。



■納屋防災緑地

自3 C-3

幅約50m、全長約300mの南北に細長い防災緑地で、自然豊かなオープンスペースで、遊具なども整備されています。



■みなと公園

自4 D-5

四季を通じて市民に親しみを与え、物流と市民を極力分離することを目的として整備され、オーストラリア製レンガ舗装による園路、噴水やベンチ、トイレが設置されています。



■北納屋公園

自2 D-2



納屋運河を埋め立てて整備され、公園の南東部には船を停泊させる金具が残っており、運河の面影を感じることができます。

産業的資源

内はP4～P7の地図上の位置、★は重要な資源を表しています。

★本町通り商店街

産1 C-2



現在、通りの両側のアーケードには東海道五十三次の各宿場の浮世絵がかけられています。



昔の本町通り

★倉庫群

産2 C-4



千歳運河沿いには物流を象徴する倉庫群が建ち並んでいます。

■三和商店街

産3 C-2



細い路地沿いに居酒屋が建ち並びレトロな商店街です。

■四日市地区入港船

産7 D-5

四日市地区には様々な船が入港します。自動車運搬船や商船学校の船、化学薬品を運搬する船など多種多様です。



客船

ばら積み船

プロダクトオイルタンカー

練習船

清掃船



自動車専用船



ケミカルタンカー



港内巡視船



タグボート



巡視艇

★未広橋梁と臨港橋

未広橋梁 産4 C-4

千歳運河にかかる現役唯一の跳開式可動鉄道橋梁です。昭和6年(1931)に竣工しました。全長58メートルのうち中央部16メートルの橋桁が80度ほど跳ね上がります。平成10年(1998)に国の重要文化財に指定されました。



臨港橋 産5 C-5

末広町・千歳町間の千歳運河に架けられた可動橋(跳ね上げ橋)です。船舶が通るときは遮断機で車の通行を止め、中央部の橋桁を約70度押し上げて開きます。初代は昭和7年(1932)に竣工しました。現在の橋は平成3年(1991)11月に完成した3代目です。



昔の臨港橋と末広橋梁

■旧四日市港管理組合庁舎

産6 D-5



平成11年(1999)の四日市港ポートビルがオープンするまで四日市港管理組合庁舎として機能していました。

文化的資源

★ボードウォークと壁画

文1 D-4

約100メートルほどのボードウォークから様々な船を眺めることができ、壁画は地元高校生の手により平成8年(1996)4月に完成しました。



■なやプラザ

文2 C-2

廃校となった納屋小学校の建物を活用して、市民活動・生涯学習のための拠点施設として整備されました。



■菅公山車

文3 C-2

菅公山車は、菅原道真の前で文字を書くこどもを表現したものです。実際に人形が文字を書くところが特徴です。こどもが顔に文字を書き、それを道真公に見せると褒められ、こどもたちは喜び、踊ります。



※山車蔵のため普段は山車を見学することはできません

■伝七郎

文4 D-3

伝七郎は、明治39年(1906)、紡績工場や鋳工業の発展に多大な貢献を果たした伊藤伝七の別邸を利用して創業した料亭浜松茂から運営を引き継ぎ、100年伝統継承倶楽部の本部として活用されています。木造2階建ての玄関棟は明治期の建築で、当時の四日市港繁栄を今に伝えています。2010年7月に「玄関棟」と離れ座敷の「さつき棟」が国の登録有形文化財に指定されました。



■本町プラザ

文5 C-2



岩戸山車

市民交流館、男女共同参画センター、環境学習センターなどが集約した複合施設です。1階には、岩戸山車と昔の写真が展示されています。



■大入道山車

文6 D-2

首を伸長した時の高さが約7.6mに及び、わが国最大のからくり人形大入道の山車です。演技時には銅鑼と太鼓のリズムに合わせて首を長く伸ばし、首をもたげて舌を伸ばして目を向き、両手を前後に大きく振ります。もともとは諏訪神社の例祭である「四日市祭」に桶の町のだしものとして登場しました。桶の町は当時海岸に面した蔵の多い所で、狸が出没したたび人々を驚かせたので、これを鎮めるために「大入道」を制作したと言われています。



※山車蔵のため普段は山車を見学することはできません

■鯨船明神丸山車

文7 C-2

全長約8メートル、幅約2メートルの船型の山車で、屋形をもち、各所を金箔張の彫刻と幕で飾り、船首部には大型の水押しと金糸の下がりを持つ、豪華な意匠の山車です。



※山車蔵のため普段は山車を見学することはできません

この四日市旧港まちあるきマップは、四日市港管理組合・三重大学都市計画研究室共同研究「親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ」の成果の一部です。【参考文献】 四日市港管理組合「四日市港開港百年史」(2000)、四日市市立博物館「ふるさとの絵図」(1997)、四日市市立博物館「写された四日市」(2002)、四日市市立博物館「海と港の博物館」(1999)、福山満監修「目で見る四日市の100年」(名古屋郷土出版社、1990)、四日市商工会議所「目で見る四日市の100年—商工春秋別冊」(名古屋郷土出版社、1993)

まちあるき ひとやすみ

四日市港の発展とともに栄えてきた四日市旧港エリア。国の重要文化財などの歴史的・文化的遺産のみならず、たくさんのおみやげスポットが集まっています。名所だけを足早に訪ねるだけでなく、時にはくつろぎ〜と一周して全体を見渡すのもオススメ。歩き疲れたからちょっと小休止。どんなときにもびったりのおしゃれなカフェから老舗のお店や宿泊施設をご紹介します。四日市旧港エリアをたっぷり、堪能してください。



内はP4～P7の地図上の位置を表しています。

1 岩鳴屋 地図 C-1



創業は天保8年。江戸時代より、岩鳴屋のうすかわ饅頭として愛されています。厳選されたつぶあんとはんこのりと酒の香りが漂ううす皮がよく調和した四日市を代表する和菓子のひとつです。

☎059-352-3611
 四日市市駅前3-7
 9:30～18:30
 不定休
 あり

2 伊勢昆布 かんびんたん 地図 B-2



昔から海産物・乾物は長寿の元と言われ、遠く平安朝の昔から、欠く事の出来ない保存食品として親しまれてきました。ひと味違う乾物専門店。店の《海の幸・山の幸》を、日本の古き良き味をこ賞味ください。

☎059-355-2978
 四日市市津島町8-25
 10:00～18:00
 年中無休
 あり

3 志くれ・船 喜太八時雨本舗 地図 C-2



「旨い!」の言葉に、愛され続けて創業140年。三代目・四代目・五代目と受け継がれた老舗伝統の味は、昔ながらの手作りのなせる業。味にがんこな熟練の職人の心が生きています。

☎059-352-2265
 四日市市駅前1-8
 9:05～18:00
 不定休
 あり

4 太白永餅 金城軒 地図 C-2



創業慶応4年(1868)の老舗の金城軒。太白永餅は、国産のもち米・北海道産の小豆を使用して作られたお菓子の、こんがりとした香ばしさと柔らかい食感が特徴です。

☎059-352-2463
 四日市市本町6-7
 9:30～18:00
 不定休

5 華菓子司 松花堂 地図 C-2



創業明治40年 季節の和菓子とかすていらの店。徳川家康公が思案に暮れた「思案橋」(土橋)をくるみを贅沢に使った醤油味のくるみゆべしで表現いたしました。

☎059-352-3725
 四日市市津島町2-8
 9:30～19:00
 不定休(土日祝祭日は休業)

6 Jouer du Tanblan (ジュエ デュ タンブラン) 地図 B-2



ショーケースには 季節限定メニューやフルーツを使ったケーキが並び、おしゃれで落ち着いた雰囲気漂う店内。銀行を改装し、金庫室を利用したカフェスペースもあるパティスリー。

☎059-355-1525
 四日市市栄町9-2
 10:00～19:00
 月曜休(祝日の場合は翌日)
 あり

7 第一船員会館 地図 D-3



「おかえりなさい」の真心で迎えてくれる、心温まるみんなの宿。一泊¥3,200(税別)からとリーズナブルな価格も魅力。お食事は、日替わりランチが¥750。事前予約で朝・夕のお食事もお楽しみいただけます。

☎059-352-5211
 四日市市栄上町1-36
 チェックイン16:00～
 チェックアウト9:00
 あり

8 ニューコトブキ 地図 C-1



昭和49年創業以来、手間を惜しまず常に変わらない味を守り続ける老舗洋食店。自慢はじっくり煮込んだ自家製デミグラスソース。人気のハヤシライス、和牛ステーキやハンバーグなどのメニューでこの味が堪能できます。

☎059-351-3561
 四日市市北町2-17
 11:30～14:00
 16:30～21:00
 月曜日
 あり

9 創作ヘルシー料理・喫茶 ミヨシ&どんぐり 地図 C-2



元北勢中央卸売市場人だったマスターが引退後、自分があつたらなあと思う理想の店をオープン。新鮮な魚介類のメニューを多く取り揃え、昼食が¥800で味わえます。

☎059-351-6538
 四日市市御幸1-9
 11:30～13:30
 月、土、日曜日
 あり

10 もち市 地図 C-2



伝統の味を基本に、厳選素材である滋賀県産羽二重糯・岐阜県産高山糯と北海道十勝産の小豆を現代的に調整して、お客様に美味しく召し上がっていただけるように真心込めて、日々新たに製造しています。

☎059-352-2887
 四日市市本町さき番6号
 8:30～17:30
 不定休

11 うどん そば 八百文 地図 C-2



終戦前から受け継ぐ伝統的な味を守り続け、三代目となる大将が一つ一つの工程に丹精こめて練った手打ちうどんが自慢。メニューは、そば、丼物もあり出前も承ります。

☎059-352-5454
 四日市市豊町6-6
 11:00～14:00
 17:00～19:00
 日曜日、祝日
 あり

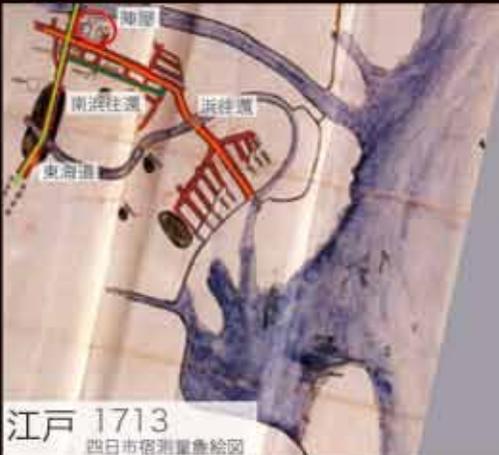
12 洋食ダイニング La-dish(ラディッシュ) 地図 C-2



手作りハンバーグが人気のラディッシュ。10年前に開発されたハンバーグの黄金レシピは、コクとジューシーさを追求し変わらぬ味を守り続けています。デザートが付くランチセットも人気。

☎059-352-3331
 四日市市御幸5-1
 11:30～15:00(LO)
 18:00～22:00(LO)
 月曜日
 あり





〈江戸時代の四日市〉

元禄元年(1688~1704)に湊がこの地の東海岸に移ったことにより、急速に発展し多くの廻船問屋・干鰯商・漁民の納屋や蔵が軒を連ねる町になったといわれます。当時のメインストリートは、「浜往還」と呼ばれる東海道と湊を繋ぐ道で、湊町の中心だった浜町もその通りにありました。江戸時代終わり頃から明治の初めにかけて、四日市港は伊勢湾における最大の商業港として大変賑わいました。



〈戦前の四日市〉

明治32年(1899)、四日市港は開港場に指定され、国際貿易港としてスタートしました。鉄道も開通したことからまちの中心は、より駅に近い本町商店街へ移り、商店街としての賑わいを見せていました。また、講和記念大博覧会が催され、大変な賑わいでした。太平洋戦争激化に伴い四日市港も軍需工場への転換を強いられ、その結果1945年6月18日に大空襲を受けました。



〈浜往環と南浜往環〉

浜往環とは、江戸時代、東海道と湊をつなぐ通りのことを指します。当時の四日市は、東海道沿いの北町、南町と、浜往環沿いの立町(堅町)、中町、浜町を中心に発展し、陣屋や四日市庄屋の屋敷があるなど、行政の中心地となっていました。陣屋跡地は現在の「市立中部西小学校」であり、浜往環・南往環の一部は現在も道路の一部として残っています。



〈稲葉三右衛門〉

明治3年(1870)、四日市-東京間の航路開設以降、四日市港を経由する貨客は増加しましたが、当時の四日市湊は、安政の大地震などにより、港口が流砂にふさがれるようになり、干潮時には小舟の出入りさえ困難な状態になっていました。このような光景をみて、稲葉三右衛門は「四日市の生命は湊にある」と私財を投げ打って湊の修築に尽力しました。多くの困難もあり12年の歳月を要しましたが、明治17年(1884年)に工事を完成させ、現在の四日市港の基礎を作り上げました。



稲葉三右衛門は、天保8(1837)年、美濃(岐阜県)高須の吉田家に生まれ、四日市納屋町の廻船問屋・稲葉家の6代目を継ぎ、港の修築に貢献した。大正3(1914)年没。



〈現代の四日市〉

国道23号線が開通したことで、現在の四日市は23号線を境に東西に分断され、まちな中心は近鉄四日市駅周辺へと移りました。第2ふ頭、第3ふ頭をはじめ埋め立て地がさらに増え、工業港としてより大きくなりました。また、納屋運河の大半も埋められ現在は、納屋防災緑地となっています。



〈戦後の四日市〉

終戦後、諏訪新道の拡幅工事等の計画的な街路整備が急ピッチで行われた結果、浜往環や南浜往環といった歴史的な通りは一部踏襲しているものの、その面影は無くなりました。海辺の工場群は、復興も急激に進み、平和産業として生まれ変わりました。この時期に潮吹き防波堤の背後が新たにコンビナートとして埋め立てられ、防波堤としての役割を終えました。



〈四日市港の将来像〉

四日市港管理組合が平成21年(2009)に取りまとめた「四日市港長期構想」によると「背後圏産業の発展を支えるみなど」、「都市・住民とともにあるみなど」、「環境にやさしいみなど」という3つの将来像が描かれています。その中で四日市旧港は「都市・住民とともにあるみなど」としての役割が期待されており、将来像を実現するために「まちづくりと一体となった港づくり」、「みなどの文化が醸成し、人々が憩い、楽しめる港づくり」といった取り組みがなされる予定です。



〈戦災復興計画〉

昭和20(1945)年、米軍の爆撃により、四日市市は市街地面積の約9割に相当する110万坪が廃墟となり、焼失した住居は1万戸以上にのぼりました。戦災からの復興を円滑に進めるため市では、県と協力して、戦災復興計画の立案にあたりました。復興計画の中心は、近鉄四日市駅を諏訪に移転し、国鉄四日市駅を拡張して、この2つの駅を幅70mの道路(中央通り)でつなぐ計画でした。この道路の両側は市役所などの官公庁、銀行など高層建築物の集合する商業用地域として指定され、こうして今日の四日市の中心部が形づくられていきました。